

UA 神奈川学習センター

はる だより

1998年4月1日
第1巻創刊号(通巻2号)

ハイライト

- 1 創刊によせて
- 2 特集:入学と卒業
- 3 論文を書く
- 4 特集:身障学生の体育実技
- 6 面接授業の紹介
- 7 J.ラスキンを翻訳して
- 同好会・学生サークル
からのお知らせ
- 8 研修旅行のお知らせ
編集後記



..... 創刊によせて

浜口 允子

放送大学神奈川学習センターのニュースレターが、ここに創刊されることとなりました。志を同じくして、共に学んでいる方々が、情報を共有し、互いによきメッセージを送りあう場とするためです。

いま日本では、情報は溢れんばかりに多く、書籍は毎月5000点、雑誌は毎月4000点が発行されているといえます。インターネット情報にいたっては、日々膨大に増殖しているようです。ですから、そのなかでみれば、これは小さな小さな場であるのかもしれませんが。

けれどもこれは、皆さんのページであり、私たちのページです。同時に、私たちが広く日本全国の学友に向けて発信する呼びかけのページでもあります。ですから、ひとりでも多くの方が、この場に関心をよせ、参加して下さいを希います。

またこれは、遠からずインターネットのホームページにもなる予定です。インターネットという媒体は、どこまでも広く窓を開いていますから、これは外の世界にむけて送りだす私たちの分身になるといえるでしょう。どうか皆さんがそこにアクセスすることで、内容をより密度の濃い、神奈川学習センターらしいものにしていただきたいと思います。

このニュースレターが、幸いにも同じ時と場とを共有している私たちを繋ぐ絆となりますように。

もしあなたが、絆の端をひいてくだされば、多くの人がそれに応えてくれることでしょう。

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
電話番号 045-710-1910
FAX 番号 045-710-1914

特集：

入学と卒業

放送大学との出会い

大出 鍋藏

放送大学が開校されるちょうど一年前、NHK市民大学が放映していた中に、『乱世の人間像＝親鸞と蓮如』があり、笠原一男先生が講義をしておられた。それは大変面白く楽しいもので、一度も見逃すことはなく受講した。

この先生が放送大学で『人間の歴史』を担当されることを知り、放送大学に入学して日本歴史を本格的に勉強してみようと思ったのが一つの動機であり、もう一つは、地域で郷土史を学んでいたことである。

私が生れ育ったのはペリ - 来航の地浦賀で、江戸時代の前半では、干鰯（ほしか＝綿作物の肥料）取引で繁栄、後半は江戸の出船・入船の荷物検査を行なう浦賀奉行所、船番所が置かれて、賑わいを見せた処である。

そのようなことから、大商人や名主、奉行所に勤める与力・同心が書き残してくれた「古文書」があり、この解説が毎週一回行なわれており、それに参加していた。

そのような時に放送大学の開校を知ったが、当時はまだ勤め人であり、学業を終えて三十数年がたっていること、テレビ放送が受信出来ないこともあって、とても卒業を目指す全科履修生はむずかしいと考え、選科履修生として入学した。（数年後に共同アンテナでテレビ放送も受信可能となる）

通信指導問題をなんとか片付け、初めての単位認定試験を受けた。択一式の試験はこの時始めて経験する。結果は半分しか合格せず、やはりダメであったかと思ったが、当時は三学期制で、すでに二学期の授業が始まっており、もう少し努力すれば何とかできるのでないかと考え直し続けることにした。幸いにも、その後は合格率も上がってい

った。
二年間の選科履修生でようやく自信がつき、全科履修生に切り換えて四年後に卒業することが出来た。卒業研究は笠原一男先生の指導を受けることが出来て、多くのことを学び、二回目の卒業研究にも大いに役立った。この大学に入ったら卒業研究に取り組むべきだと思っている。これをしないと、卒業してもなにか中途半端で終了してしまったように思える。

日本歴史に限らず、この大学にはたくさんの方々の何々史という科目があり、周辺の科目も多く、次々と新しい研究書（教材）が登場してくる。ライフ・ワークとして郷土史を学ぶものにとって、この大学はかけがえのないものになってきている。放送大学症候群という人もあるようだが。

神奈川学習センターと私

大塚 幸雄

放送大学の授業が開始された1985年、私は海上自衛隊の船に乗っていた。船は長期の修理に入っていた。横須賀から豊洲の造船所まで通うには、朝一番の電車に乗らなければならない、乗員の多くは、平日は造船所の宿舎に泊まり、家に帰るのは土日という生活であった。船は武器のミサイル化、エンジンの総分解検査、船体の大補強という工事を行っていた。それは海上自衛隊初めての一年半という長期のフラム（近代化）工事であった。

昼は船で機関工事に立会い、夜は宿舎でテレビを見たり、お酒を飲んだりという生活であった。そんな日常に何かもの足りなさを感じていたので、早速入学した。いつもは特急で素通りするばかりであった京浜急行の弘明寺駅に、初めて降りた。それから神奈川学習センターへ通う生活が始まった。

船の修理が終わり、行動が開始された。船の業務予定と放送大学の授業予定とを合わせることが、私には一番大変であった。せっかくなので合わせても、予定外のことが毎年起こった。三宅島の大噴火や、ヘリコプターが落ちて、船が緊急出動し、一週間以上も航海したりするのは、不思議と期末試験のときであった。船の後甲板で、暗い夜の海に流れ出る赤い溶岩を見ながら、予定では放送大学の試験を受ける日だったのにとったりした。

哲学や歴史を勉強したくて入った放送大学であったが、卒論は美学で群馬学習センターの青山先生の指導を受けた。卒業式には、皇太子殿下が御臨席され、大きく報道された。

その後、海上自衛隊を定年退職し、ある会社に再就職した。放送大学も選科に再入学したが、気持ちを改めて全科に入り直し、現在「生活と福祉」で学んでいる。

人生は旅だと言われる。それは自分自身への旅、自分を見つける旅だとも。私自身60歳を過ぎた今、高校時代、英語の時間に習ったニュートンの言葉を思い出す。「心理の大海を前に、キラキラと輝く砂浜で遊ぶ少年のようであった。」そして、また思う。ニーチェの言葉を。「夜だ。ほとぼしり出る泉は、いまみな声を高めて語る。そしてわたしの魂も、ほとぼしり出る一つの泉だ。」（ツアラツウストラ）満開の桜が川面に美しく映える大岡川のそば、神奈川学習センターが、私たち学生の心のよりどころであってほしいと思う。そのためには、私たちの方からの、ほとぼしるものがなくてはいけない。それは私たち自身と心、学習する熱意である。私自身の旅はまだ終わらず、己の未熟を感ずるばかりである。

放送大学を卒業して

高比良 静子

私が神戸の八雲小学校を卒業する少し前に担任の先生が、「君、僕が学費を出してあげるから進学することにしたらどう？」とすすめて下さった。学費を出して頂ければ、好きな勉強は出来るかも知れないけれど、その頃の私の家庭は貧しかったので早く働いて少しでも家計の手助けをしなければならぬと考え、両親には黙って先生のお話はお断りした。

卒業後、神戸の済生会兵庫東病院の見習い看護婦として就職したが、心中ひそかに、働きながらも大学を卒業した位の勉強は続けようと思ったものである。

昭和5年に、日本で初めての夜間女学校が神戸の県立第一高等女学校の中にできた時、すぐさま入学して、四年間の通学の後、卒業したのは、二十二歳の春だった。

しかしその当時は夜間女学校を卒業しただけでは、大学入学資格はなかった。つづけて何回か専検の試験を受け

て合格しても、まだ入学資格は得られず、何年かのちに定時制高校が出来た折、三年の後期に編入して、卒業したのは満四十歳の春だった。

小学校卒業後、二十三歳で結婚するまでの十年間は、看護婦として働き、結婚数年後に鍼灸師の資格を取得して、東洋医学的な方法で、病人の治療を続けて、今日まで約五十年の月日が経っている。紀元前何世紀も前に書かれたと伝えられる、中国の医学書に、「脈診」なる語があって、脈状を細かく識別し、その脈状を正常化することによって、病体を常体に復し得る術を会得されたという、よき師に出会い、入門、師事して、その方法を私も会得して、今日まで毎日病人に施術し、治療成績をあげている。

昭和六十年四月に、日本で初めて放送大学が開校された。私が待ち望んでいた学校である。当時七十四歳になっていた私は「わが人生最後のチャンス」とばかりに、すぐ入学手続きをすませ学校から送られてきたテキスト片手に、テレビとラジオで勉強すること、六年六ヶ月にして卒業証書を戴くことができた。満八十歳の傘寿を迎えた昨年の九月末のことで、専攻持論のテーマは「ニーチェとキリスト教」であった。

卒業証書授与の折、学習センターの所長でいらっしゃる浜口教授は、「今から三ヶ月前の六月に、文部省の規則が変わって、学士(教養)に学位がつくことになりました。あなた方は、その学位を授与された最初の学生です」と、おっしゃった。学士に学位がつくことのようなメリットがあるのか分からなかったけれど、何となく嬉しい気持ちになった。

日本で最初の夜間女学校に入学し、日本に最初に出来た放送大学を卒業して、学位を授与された最初の学生の一人となった私は、このあともう一つ、何か「最初」という字がつく物ができそうな気がするのである。

「一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ずる」という理によって、必ずもう一つの「最初の人」になり得る可能性があるものだという期待に、胸をはずませている、今日このごろの私なのである。

論文を書く

天野 友子

「放送大学で学士号をいただくぞ」と心に決めてから、途中何度も挫折しかかった事がありました。時間をやりくりしての受講は、新しい知識の修得もあり、苦しくても楽しさもありましたが、一番苦労したのは、当時は義務づけられていた卒業論文でした。「卒論」の二文字がいつも心にひっかかっている、何から手をつけていいかわからず、正直に言えば泣きたい気持ちになったこともあります。

そんな時、勤務先の先輩からとても適切なアドバイスをいただきました。曰く、「論文と構えないで、貴女の得意なお料理を作るのだと思えばいいんだよ。」

どんなお料理を作るのか、即ちまずテーマをしっかりと決めたら、材料を揃えて調理する、そこで一番大切なのは自分の味を出すということ。注意すべき点としては、ひとりよがりが一番禁物で、常に客観性を忘れず、その上に自分の考えを打ち出し、具体的な論拠を示すという事、等々。

お料理では、手際の良さが大変重要ですが、論文作成についても同じ事が言えるようで、私自身は次のような工夫を試みました。まずテーマに添った専門書を一冊選定し、徹底的に熟読しました。手垢で本のページが汚れるくらい飽きずに何回も読みますと、「読書百遍義自ら見(アヲ)」と言われておりますが、自然に理解が進み、かつ自分なりの意見も持てるようになります。

次に、自分の考え・意見・提案等々を、それぞれカードに思いつくまま記入しました。出来るだけきめ細かいカードを作成することがポイントです。そして今度は、この沢山のカードを、大項目ごとにグルーピングしました。この大項目のグループを小項目に区分けすれば、実はもう論文の骨子と目次ができたも同然ということになります。

自分の意見・主張を裏付ける、あるいは実証するためには、本来ならばアンケートのような方法で、広く社会の意識の実態を探る方法が望ましいと思いますが、私の場合は銀行経営のテーマに関しては、主要行の年次報告・レポートを頂戴して、これを熟読し、整理してみるという方法を用いました。各行の経営理念のエッセンスがそこには如実に表現されており、とても参考になりました。

原稿用紙で約100枚、ワープロを打っただけでも大変でしたが、自分としては、放送大学の卒論は生涯の大作だと思っています。書き終えた時の満足感、それまでの苦しみを十分補って余りあるものでした。出来上がった論文を初めて母に見せた時、「良く頑張ったね。」とほめてもらったのが、今でも忘れられません。

卒業の思い出

田中 静一

会社を退任してから、何もすることがなかった。退屈のぎに、元横浜国大の跡地を散策していたところ、目についたのが放送大学だった。早速入学して、「産業と技術」を専攻した。

ところが、卒業間近になって、区の検診でがん診断を受けた。胃の手術をするなど病魔と戦いながら、ようやく学習を終えた。卒業は1年延びたものの、手術後は身体も元気になるし、学友に励まされながら、平成8年3月に卒業することができた。家族が筆者の快気と卒業を兼ねたお祝いにと、北欧(スウェーデン・ノルウェー・デンマーク)観光を企画してくれた。長男夫婦が同行することになって、安心して出かけることができた。

6月28日成田を出発して、スウェーデ

ンに到着。ストックホルム駅から列車でノルウェーのオスロへとまわって、観光を楽しんできた。

北欧の春は遅く来るといわれているが、その訪れ方はすこぶる急激である。雪が溶け去ったかと思うと、もう瑞々しい春草が萌え出ている。川は雪融水に濡れて、狂ったかのように、とうとうと奔流している。大地の感触に飢えた人々は、若草を褥にして、丘に腰を下ろし、春の歓びに燃えながら、清澄で波静かなフィヨルド(峽湾)や、幾重にも連なる未だ雪をいただく山々を、じっと眺めている。このような光景が、列車の窓からチラチラと見えた。けれども、人々はいつまでもそうした感傷

5 ページへ続く

特集: 「身体障害学生の放送大学体育実技授業」

放送大学助教授 白井永男

保健体育科目は放送授業（2単位）、面接授業（1単位）と体育実技（1単位）を開講しています。

このうち体育実技は、営利を目的としたスポーツ教室をも含め、専門的識見を備えた指導者によって計画的に実施されている一般社会体育事業に30時間以上参加することによって単位を修得しなければなりません。

しかし、身体に障害を有する学生にとって地元市町村などが実施している体育・スポーツ教室などへの参加はなかなか容易ではありません。そこで、社会体育事業に参加が困難な身体障害学生に対しまして、本学の専任教員と非常勤講師による放送大学 体育実技授業が開講されています。

「目的」
 受講者のすべてが成人ですから、体力的には下降の状態にあります。この年齢による体力の低下は、日常生活のなかに身体活動を取り入れていない人ほど顕著であることは周知の通りです。放送大学で勉強しようとする意欲的な人であっても身体に障害を有する方の運動量は少ないと思います。

そこでまず体を動かすことが楽しくなるように心がけることを第一目標において実施しています。そして身体運動を通して自分の身体機能の程度を十分に認識し、それぞれが自分の課題がどこにあるのかを明確にするように働きかけます。

「履修方法」
 面接授業・単位認定試験期間をのぞいた週末に、関東地域の6学習センター（群馬・埼玉・千葉・神奈川・東京第一・東京第二）でそれぞれ年間6回開講します。1回 参加することによって5時間が認められますので6回参加すれば1単位を修得することができます。

なお一般社会体育事業に参加した場合にはその時間を加算することができます。

開講日時につきましては各学習センターにお問い合わせください。

「受講対象者」
 全科履修生のうち、身体に障害を有することから、修学上の特別措置として放送大学体育実技授業の履修を申し出て、

身体障害者の入学に関する調査会議で認められた学生を対象にしています。

各所属学習センターに申し込んでください。

「担当講師」
 本学の専任教員2名と体育の専門職1名、それに6名の非常勤講師野合計9名が担当します。非常勤講師のうち1名は手話通訳の専門家です。

「履修内容」
 原則として、講義・個別面談・身体計測・実技によってその日の授業が展開されます。それぞれ自分の都合にあわせて参加されますので継続的な授業ができません。そこで毎回完結型の授業となります。

なお学習センターにはスポーツを実施する場所がありません。ほとんどが机や椅子を整理した一般教室や中庭、近所の公園などで実施しています。ただ東京第一学習センターには体育館とテニスコート、千葉学習センターでは本部のグラウンドが使えます。埼玉学習センターには多目的ホールがあります。

実技は、まずストレッチ体操、音楽に合わせてのダンス・リズム体操などからはじめます。続いているいろいろなボールや棒などを使った基本動作を行います。

そして休憩を挟んでその日の参加者にあわせたゲームや競技を行っています。

身障体育実技を受けて

矢島 佳典

私は、スポーツ事故で首の骨を脱臼骨折し、手足の自由を奪われ車椅子生活となりました。放送大学に入学を決める前、履修科目の中に体育実技があることを知り、一体どんなことをするのだろうか、と不安な気持ちでいっぱいでした。車椅子の自分にどんなことができるのか、筋力トレーニングのようなことを何時間もすることになるのか、又、一緒に体育実技をする他の学生の皆さんに迷惑を掛けずに済むのだ

ろうかなどと、いろいろなことを考えました。入学してから身障体育があることを知り、少なくとも私のように体の不自由な学生が他にも数人いるらしく、その状況の中で体育実技が受けられるということなので少し安心しました。

さて、身障体育の内容はどのようなものか簡単に説明します。授業のはじめにまず測定です。脈拍、肺活量、握力、血圧、身長、体重を測定し、「体育実技履修ノート」に記入していきます。日頃測定する機会がないので非常に助かります。その後、先生の講義を聞きますが、その前後に「息こらえ」をします。「息こらえ」とは、一呼吸でどれだけ息を我慢できるかを試すものです。講義が始まる前に、まず自分の予測値を記入します。1回目は、60秒間の「息こらえ」を行い、結果を記入します。先生の講義が始まり、それを聞きながら呼吸を整えます。講義の

後、2回目の測定です。今度は時間の制限はありませんが、だいたい120秒までです。その後、全員で準備体操をしてから、体を使ったゲームをします。ビリヤード、ボーリング、ゲートボールなど、先生方が特別に考えたルールに基づいて進めていきます。この特別なルールというのは、様々な障害を持つ学生が、機能のレベルの差に関係なく勝負できるように、個人別に得点の付け方を決めてみたり、例えばボーリングの場合、ボールを投げる1を個人別に決めるなどして、勝負性を高めて楽しくできるようになっています。又、ゲームの合間に個別の面接があり、生活面や大学生活における問題はないか、相談にのって貰うことができることも身障学生にとっては非常にありがたい時間です。こうして1日3時限の体育授業は終了します。体育実技が終了する頃には、参加した学生、先生方もすっかり仲良くなっています。卒業し

た今でも、食事に行ったりカラオケをすることもあり、それを楽しみに参加している人もいます。ちなみに私もその内の1人です！

障害学生のための

体育実技に参加して

早瀬川 麻里

私が障害学生のための体育実技に初めて参加したのは、入学から2年目の、1学期の単位認定試験が終わってホッとしている9月でした。筋ジストロフィーによる障害のため日常生活での様々な場面で介助を必要とする私には、放送大学で勉強するという事は自分にとってのチャレンジでもありました。「10年かけて卒業するつもりで頑張ろう！」入学手続きを終えて送られてきた真新しい印刷教材を手にしたとき、そんなことを心の中でつぶやいていました。

放送大学を卒業するには、皆さんもご存知のように、いくつかの必要条件があります。取得単位数は124単位以上ということはもちろん、その中には外国語や面接授業での単位も含まれます。現在では必修ではないようですが、私が入学した当時はまだ体育実技の単位取得も必要条件でした。

「体育実技……」テレビやラジオでの学習なら何とかかなるけれど、身体に障害のある私は一体どうやってこの単位を取ればよいのか、「体育実技」という文字が重くのしかかりました。もちろん、入学の際には障害学生のための体育実技の時間を設けてあることは知らされていましたが、果たしてそれが本当に自分にもできる内容なのかどうか半信半疑だったのです。初めて「体育実技」に参加した日、単位認定試験の時とは違う、不安と期待の入り交じった緊張感を心に抱きながら学習センターに出かけたことを覚えています。

「こんにちは、ヨロシク！」初めての体育実技の日、玄関ホールにいた私に声を掛けて行かれたジャージ姿の方がいらっしやいました。体育実技担当の先生でした。その明るく元気な声に、それまでの緊張感が少しほぐれた気がしました。様々な障害を持つ学生のための授業内容は、学生各々ができる動作を活かし、体を動かすことを楽しむように工夫されていました。ボウリ

ング、ピリヤード、ゲートボール等は、ルールを大幅に変えていつの間にか「体育実技流」のゲームを作り出してしまいます。「体育実技……」と後込みしていた私はどこへやら、そこには明るい雰囲気の中で体を動かすことを楽しんでいる私がありました。最近、障害学生のための体育実技に登録する学生が減っていると聞いています。必修ではなくなったこともあり、以前の私のように「体育実技」に後込みをしたまま、卒業されるのかもしれませんが、でも、それはとても残念な事だな、と私は思います。卒業した今、私が体育実技で取得した1単位は、放送授業や他の面接授業での1単位とは違うものを感じます。それは、どちらがいいとか悪いとか、たくさん勉強したとかしないとか、そういう違いではありません。その違いを知りたい方は、是非、障害学生のための体育実技に参加してみてください！

大学の楽しみ方

水戸 真子

私が放送大学に入学した動機は、「大学」というものを体験してみたかった、という安易なものでした。動機が不純な学生ですから、あまり一生懸命に勉強してはいません。そんな学生の話では説得力はありませんが、「大学に入ってよかった！」と思う授業がありました。

私は主人と共に放送大学に入学しました。主人は障害を持っているため、体育実技は「障害者対象の面接授業」に参加しました。最初、私は主人の付き添いで、見学だけのつもりでついていったのですが、見ているととても楽しそうなので参加させて頂くことになりました。もちろん、私は参加しても単位をもらえるわけではありません。でもすっかりみんなの仲間入り！「障害者対象の面接授業」といっても、健常者との壁は何もありません。他の面接授業では体験できないものがここにはあります。単に授業内容(種目)を一方向的に先生方から示されるだけでなく、授業の最初に、その日の授業内容を先生方と学生達が意見を出し合って決めることもあります。自分だけが授業を受けるのではなく、互いに協力し、影響しあいながら学べる授業なのです。皆、和気あいあいと授業を楽しんでいて、とても居心地のよいところです。誰もが仲間という雰囲気です。私はこ

3ページから続く

に、耽っているわけにはいかないのであろう。この北欧のきびしい自然を生き抜く為には、春から夏にかけて、人々はいそいそと働かねばならない。北欧の夏は短いけれど案外暑く、かつ日照時間が長いので、作物の成長もすこぶる早い。麦や馬鈴薯の収穫、牧草刈り、家畜の手入れに忙殺され、1年の生計を考慮に入れ、短い夏に仕事を計画的にやっているのである。

ほんの一時の観光旅行であったが、このように1年で最も過ごし易い夏に、北欧の旅ができたことは幸運であった。また、今回は報告できなかったが、北欧の福祉関係などの状況を見て、大変参考になった。筆者は卒業のあと再入学し、「生活と福祉」を専攻している。そして、これからの人生を有為に過ごしたく、今日もまた生涯学習に励んでいる。

の授業での交流が励みになり、手話の勉強を始めました。手話で聴覚障害者の人と会話ができれば最高だ！と思ったからです。今ではようやく手話で会話(通じるという程度?)ができるようになりました。又、勤めている会社では、「バリアフリー」の仕事のメンバーを募集していたので、進んで応募しました。自分の中で「何かが変わった」と思わせる授業でした。

今では、単位を取り終えた人や、卒業してしまった人も、半年に一度のこの授業を楽しみに集まります。あなたも積極的に参加してみたいかがですか？是非「何か」を得に来ませんか？勉強が苦手なら、な・お・さ・ら！

平成10年度 放送大学神奈川学習センター 体育実技授業日程

- 第一回 平成10年8月28日(金)
- 第二回 平成10年8月29日(土)
- 第三回 平成10年8月30日(日)
- 第四回 平成11年2月26日(金)
- 第五回 平成11年2月27日(土)
- 第六回 平成11年2月28日(日)

(時間は各授業日共通)

13:00~17:00)

受講希望者は、所定の参加申し込み書をあらかじめ神奈川学習センター窓口へ提出してください。

面接授業の紹介

美術史と美術理論

西洋美術とキリスト教および西欧中世の美術を中心に、美術の歴史を具体的な作品を通して学び、美術史の方法論を考える。

< 授業時限 > 木・1時限(第二コース)
< 担当講師プロフィール >

担当講師 伊藤里麻子
担当授業 美術史と美術理論
研究領域：西洋中世の美術

授業にさいして：

学生諸氏には、授業にとどまらず、ひろく、芸術に触れる機会を、積極的に持つように勧めます。展覧会、美術館、博物館などに足を運び、自分の目で美術を見てください。放送授業もなるべく受講してください。

< 授業内容 >

西洋の美術においてキリスト教がいかなる意味をになってきたかということ、作品と研究理論の両面から考察する。中世の美術が中心になるが、古代末期のキリスト教美術発生からの歴史を追い、ルネッサンス以降のキリスト教美術との比較も試みる。

1. 導入：中世のキリスト教美術

キリスト教発生からローマによる国教化、東西教会の分裂、中世におけるキリスト教の発展に至る歴史を概観し、キリスト教美術の特質を、< 教会と聖書 > という点から考察する。

2. 古代から中世へ

リッオーリ版< イタリアの美術 ギリシャからゴシック > (ビデオ)をみて、古代から中世の西洋美術のながれを概観する。

3. 中世の美術の流れとキリスト教美術の特色

中世初期とビザンティン、ロマネスク、ゴシックのそれぞれの時代様式を、建築と建築装飾(モザイクをふくむ壁画、浮き彫りをふくむ彫刻、ステンドグラス等)、写本画など多くの事例にふれながら理解する。

さらに、< 教義と図像 >、< 宗教美術における時間の構造 >、< キリスト教の象徴的図像体系 > など、宗教美術に固有の問題を考察する。(スライド使用)

4. ゴシックの象徴図像

前回までの理解を受けて、フランスのシャルトル大聖堂を例に、ゴシック教会の象徴性を、建築、彫刻、ステンドグラスなどさまざまな角度から検証する。(スライド使用)

5. まとめ

テーマ1 ロマネスクの文化の特徴である修道院の美術を考える。

テーマ2 キリスト教美術の変容

中世末期からルネッサンス、バロック以降のキリスト教美術の変化をみる。

(スライド使用)

< 参考文献 > : エミール・マール「ヨーロッパのキリスト教美術」(柳 宗玄、荒木成子訳 岩波文庫2巻)

会計学

会計学の基礎にある計算システムとしての「複式簿記」をマスターし、この計算システムを支える会計の理論および作成された財務諸表の分析と評価について学ぶ。

< 授業時限 > 火・1時限(第一コース)

< 担当講師プロフィール >

担当講師 水野孝

担当授業 会計総論

1915年 名古屋生まれ 放送大学「自然の理解」および「産業と技術」卒業、公認会計士

趣味: 独学の水彩画を嗜む。これは自己満足。下手でも一生懸命、毎日描いていると下手なりに様になってくるのが不思議である。第一学習センターの「下馬祭」で作品を展示する。

< 概要 > : 1回目 ~ 5回目 (5/12, 5/26, 6/9, 6/23, 7/7)

複式簿記の成り立ちから、その原理を説き、仕訳 - 元帳(転記) 試算表 - 貸借対照表、損益計算書(決算)を例題により演習する。そのあと、実在の会社の最近の決算書を使い、経営分析の手法を学ぶ。

< 受講に当たり講師から > : 簿記は特殊な技術です。複式簿記の思考は実に巧妙に出来ていて、財務諸表の信憑性を確認することができます。コンピューターで会計事務を行う場合にも、分類計算、作表はコンピューターが自動的にやってくれますが、仕訳については人間がインプットを行わなければなりません。それには、複式簿記の知識が必要です。複雑難解な会計理論を理解するためにも、複式簿記の知識は必須です。会社の決算書を見て財務内容を理解するためにも、複式簿記の知識が

ないとその経営の分析すら出来ません。日商簿記2級1級、全商簿記1級上級に合格していれば、社会的に有力な実績が積みめすし、さらに、税理士、公認会計士の資格を得ておけば、どんな時代になろうとも力強い生活が保証されます。

< 参考文献 > : 放送大学印刷教材 小川 冽著「会計学」

< 近況報告 >

1996年夏早稲田大学のグループでアメリカ UCLA 大学研修終了。目下、「自然環境問題」に関心あり、会計学でアプローチできないか研究中。会計学は「取得原価主義」から「時価主義」に移りつつある。投資家のみならず経営者の判断を誤らせないためである。会計処理の実態は「会計理論」よりも「税法」に影響されているのが実情であることを忘れてはならない。会計検査は「証拠」によって「財務諸表の真实性」を確かめることである。

ライフコース論

ライフコース・アプローチの考え方と方法を学ぶ

< 授業日 > 6月7、14日(日曜型)

< 担当講師プロフィール >

担当講師 佐藤友光子

< 概要 > : ライフコース論は人間の一生を一種の社会現象としてとらえることから出発する。すなわち、ライフコースとは変動する社会構造の内部で個人の生活構造(自己と社会との関係のパターン)が展開していく過程にほかならない。ライフコースは十人十色である。しかし、そうした多様性の背後に、年齢や時代や文化の影響による一定の傾向性(規則性)が存在している。本講義では人生という現象をとらえるためのひとつの視点としてのライフコース・アプローチの考え方について紹介し、具体的研究例を取り上げつつデータの収集・分析の仕方を検討する。

< 授業内容 >

- 1回目 ライフコース・アプローチの特徴
- 2回目 ライフコース研究のための基本的概念
- 3回目 ライフコース・データの収集
- 4回目 ライフコース・データの分析
- 5回目 ライフコース・データの読み方、研究例の紹介

(なお、学期・クラスにより内容に変更がある場合があります)

< 受講に当たり講師から >

5回目の最後の時間に授業内容の理解度をみるための簡単なクイズを行います。これは必ず解答の上提出すること（ノート・配布プリント・テキスト・参考書等持ち込み参照可）。なお、ライフコース・データの集計・分析についての簡単な作業を行う場合があります。質問・意見等受講者の皆さんの積極的な参加を望みます。

<参考文献>

大久保孝治・嶋崎尚子『ライフコース論』（財）放送大学教育振興会、1995年（ただし授業時間中に使用する資料はその都度教室で配布しますので、事前購入の必要は必ずしもありません）。その他、授業時間中に適宜紹介します。

管理会計

「経営分析」「設備投資決定」「短期利益計画」について学ぶ

<授業日>6月21、28日(日曜型)

<担当講師プロフィール>

担当講師 野々山 隆幸

略歴 昭和46年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 平成1年横浜市立大学商学部教授（現在に至る）

<授業内容>

「管理会計の体系」を概説した上で、「経営分析」「設備投資決定」「短期利益計画」を取り上げ、それぞれ、基本的な考え方をわかりやすく解説する。

1回目「管理会計の体系」「経営分析」2回目「設備投資決定」「短期利

益計画」など

Microsoft PowerPointを使ったプレゼンテーションによって、面接授業を行う。主要なスライドは、プリント教材として配布する。授業中に、簡単な計算例題の解答練習を行う。電卓と次の教材を持参すること。

教材：宮川公男監修、野々山隆幸・小山明宏著『財務情報分析の基礎 Excelによる演習つき』（実教出版）面接授業の効果を上げるためには、予習と復習が必要である。特に、予習が重要である。1回目には教材の「第1章 経営分析」の予習、2回目には「第2章 設備投資決定」と「第3章 短期利益計画」の予習が必要である。

講師もがんばりますので、受講学生にもがんばっていただきたい。

』．ラスキン『アミアンの聖書』を翻訳して

高橋 昭子

昨年の十月、新宿にある「ぱる出版」からジョン・ラスキン著『アミアンの聖書』が出版された。放送大学の卒論でラスキンを取りあげて以来、これまでいくたびかラスキンに関わりつづけてきた。今回、日本語訳に参加し、この訳書が完成したことで、ようやくラスキンに義理を果たすことができたという感慨を覚えている。ほかの共訳者の強力な手並みもあって、自分で言うのは気が引けるが、本書の出来ばえはなかなかのものではないかと自負している。研究者にしか御買上願えない恐れもあるが、放送大学の卒業生及び在学生の方々には是非お読みいただきたい。

この書のタイトルは、アミアン（パリの北、電車で約一時間）の大聖堂がまったく聖書そのものである、という意味合いである。キリスト教、聖書の世界、カテドラル、キリスト教美術等、これらに抱いていた憧れにも似た私の気持ちに、この書は応えてくれている。ラスキンは彼独特のシニカルな論調で、時に華麗な文体で、また時に批判的、時に理解ある態度で、キリスト教に対する深い認識を示している。キリスト教がヨーロッパの成り立ちに果たした役割は何だったのか、中世の一般民衆にとって教会とは何だったのか、そして司教とは何だったのか、ラスキンとしては珍しく容易に、細かいことには目を閉じて、一気に読めてしまえるように書いている。

かつてアミアンの大聖堂は、そこを訪れる人びとに聖書を読むのと同様の効果を与えたのだという。ラスキンは、彼と同時代の人びとに観光の手引き書として、この書の第四章を書いている。私が見ても、この書をもとに、そこを訪れ、彼の指示に従って進み、見学することができたら、どんなに素晴らしいことかと思われる。大聖堂の佇まい、その内外を飾り、聖書の世界を再現している数々の彫像、彫刻の写真も数多く挿入されている。また、訳者代表による懇切丁寧な解説も巻末に付され、これも本書の価値を高めているのではないかと思う。

今回、このように共訳者として名を連ねさせていただいたことは、たいへん光栄である。このような採算のとれない書の刊行を引き受けてくださった出版社にも、感謝申し上げます。また、この場を借りて、皆さんに再度お願いしたい。今の図書館は殆どどのような書籍でも買ってくれるので、どうぞお近くの図書館にリクエストなさってください。ところで、この書は多才なラスキンを現しているのはよいのだが、果して宗教、建築、歴史、文学、美術、どのジャンルに属することになるのだろうか。

（ぱる出版：¥3,500）

同好会・学生サークル

からのお知らせ

神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り、学習を援助する為に、下記の活動をしています。

- ・学習に関する情報交換
 - ・会員相互の研究発表
 - ・研修旅行（大学本部セミナーハウスで図書館利用の習得等）
 - ・社会探訪（歴史博物館、動植物園、美術館及び名所史跡等の見学）
 - ・機関誌発行（不定期）
- 四月通常例会 4月19日（日）14:00
大岡地区センター 2階小会議室
主な議題は平成10年度活動計画(案)です。
- 入会希望の方の出席を歓迎します。
連絡先 内藤達也(Tel 0467-85-5043)
吉田昭二(Tel 045-752-2783)

人間学研究会

人間学研究会は、「人間の本質的・実質的なありかたについて、多面的な視野から研究するとともに、会員間の交流と親睦をはかる」ことを目的に活動しているサークルです。本会は「人間の探究」を専攻している学生のためだけのサークルではありません。どなたでも自由に入会できます。

主な活動内容

例 会：

1998年4月1日

月に1回実施。内容は会員からの話題提供と討論が中心ですが、本学内外の先生にお越し頂いての講演会もおりまわっています。毎年、4月には総会を開催しています。

会員誌：

年に1回、会員誌「せせらぎ」を発行しています。

学園祭：

8月上旬に実施される神奈川学習センターの学園祭「フェスタヨコハマ」を、他サークルと協同で実施しています。

今年は、酒井豊子先生の講演『衣生活の中の資源問題』を中心に、ビアパーティー、囲碁大会などを予定しています。

その他：

「歩きましょう」の名のもと、有志による自由参加で、神奈川県各地、旧街道などを巡っています。

会費：会費は年間2,500円です。

連絡先(98年2月現在)：

会長 大出鍋蔵 TEL:0468-41-7937
副会長 加藤哲也 TEL:0467-54-5683

で身障学生10人のサポートをすることになりました。

下記の基本理念に賛同して一緒に活動して下さる方、いつでもご連絡ください。

1. ボランティアをする側とされる側という関係ではなく、ともに放送大学で学ぶ者として、協力しあって人生をより豊かにしようとの姿勢を持つ。
2. 活動はすべて本人の自覚と責任においておこなう。
3. 学習上の手伝いに限ることとし、プライベートな生活には立ち入らない。
4. 活動は無償で行う。
5. 活動内容は固定化させることなく、絶えずより良い方向を探ろうとの姿勢を持つ。

会合は横浜駅西口5分の“かながわ県民センター”で、偶数月の日曜に行っています。

ご連絡は、次のEメールアドレスに。

ykm85110@za2.so-net.or.jp

(Tel: 0474-49-0841) 山崎 由美子

合わせることでできることを、肌で感じた親善旅行でした。(赤松孝子)

英会話クラス

English Conversation Class
At Kanagawa Study Center

講師：Nancy Anderson

日時：毎月 第二水曜日

第四水曜日

10:00～11:30

場所：神奈川学習センター

二階講義室

内容：初級から本物の英語をアメリカ人講師により指導を受けています。また、年に数回弁当持参による楽しいフィールドワークも行なっています。皆さんの参加を歓迎します。

連絡先:045-844-9647(星)

かけ橋

「かけ橋」は、放送大学に在籍する身障学生のサポートをしようと、1993年3月に作られた、放送大学の学生と卒業生から成るボランティアグループです。単位認定試験や面接授業の時に身障学生に付き添い、お手伝いをしてほかに、2カ月に一度の会合と3カ月に一度、ミニコミ紙『かけ橋』の発行をしています。現在、神奈川、埼玉、千葉、東京第一・第二・第三の学習センターでのお手伝いを行っています。今年度は就職などで活動できなくなったメンバーがいるため、4～5人

放送大学神奈川合唱団

活動報告：

月二回の練習を楽しみに、合唱団の団員とともに歌っております。いつの日か外国の合唱団の人と歌ってみたいと考えていました折、「日豪親善シドニーオペラハウス『第九』演奏会」に参加する機会が昨年8月にやってきました。この合唱団で参加したのは私一人でしたが、日本からは40人、会社員、教師、学生、さまざまな分野からの参加がありました。けれども結局は、みな共通にただ歌うことが好きな人の集まりとなりました。シドニーの人も、小学生から一般市民まで、全部で500人参加しました。国は違っても、歌うことが好きなことでは心が一つでした。これが本当の交流だと思いました。あまりに感激して、涙を流している人が何人もいました。オーストラリアの人たちは、お国柄からして陽気な優しい人びとでした。この国では、日本語が必修科目のひとつになっているようで、若い人たちの多くが日本語を話すことができます。友達になったエリザベスは教会のソリストとして活躍しているそうです。帰ってきて暫くたってから、はるばると彼女からの懐かしい便りが届きました。わたしも英語が苦手などと言っていないで、がんばって便りを書けるように勉強しなくてはと思っています。歌が世界の人びとを結び、わたしたちの心を通じ

神奈川学習センターだより編集部

発行者 浜口允子

編集者 五十嵐、遠藤、星、

加藤、中村、皆川、吉田、

山本、望月、坂井

後記

創刊号をお届けいたします。表紙の素敵な絵は、学生の中山さんが描いたものです。

Internetのホームページは、

<http://www.dango.or.jp/ua-kanag/>

Eメールの宛て先は、

social@u-air.ac.jp